

	部(支所)長	課長	担当
回覧			

## 野菜害虫の防除のポイント

お世話になっております。暑さが厳しくなってきましたがいかがお過ごしでしょうか？  
今回の情報誌では野菜害虫の防除のポイントをまとめております。  
昆虫は変温動物のため、活動や生育が温度に左右されやすくあります。一般に高温では活動や生育が活発で、低温では低くなります。これから夏季に入ると害虫の生育や繁殖が最も活発になっていきます。今月号では野菜害虫の防除のポイントを中心に新規農薬について触れていきます。

### コナジラミ類

#### 【入れない】【増やさない】【出さない】

コナジラミ類といっても多くの種類がいる。その中でも野菜類を加害するのは、オンシツコナジラミとタバココナジラミ（外見上区別がつかないバイオタイプと呼ばれる系統があり、日本の在来系統としてバイオタイプQ、Bが存在）が主体である。いずれも広い範囲で植物に寄生するが、主な加害作物はトマト、ナス、ピーマン、キュウリ、メロン、かぼちゃ、インゲンなどである。成虫の体長は1mm程度である。特にタバココナジラミバイオタイプQは効果の高い薬剤が少なく、トマト黄化葉巻病を媒介することで問題となっている。



タバココナジラミ（バイオタイプQ）成虫



トマト黄化葉巻病

防除については育苗期の防除を徹底し、トマト黄化葉巻病の感染株やコナジラミが寄生した株を本圃に持ち込まないようにする。スタークル粒剤の使用や散布剤のベストガード水溶剤、コルト顆粒水和剤、スタークル顆粒水溶剤等を使用。苗場並びに本圃では施設への防虫ネットを張り侵入防止に努める。栽培が終わった際には作物を取り除いて施設の開口部を締め切り、蒸しこみ、コナジラミを全滅させることにより施設の外に出さないように心掛ける。

私たちJAグループは“無登録農薬”は扱いません！

## アザミウマ類

### 【薬剤】 + 【雑草防除】 + 【防虫ネット】

代表種としてミナミキイロアザミウマ、ミカンキイロアザミウマ、ヒラズハナアザミウマ、ネギアザミウマが存在する。

アザミウマ類はウイルス病媒介による間接的被害や食害による直接的加害を行う。ミカンキイロアザミウマはトマト黄化えそウイルス、ミナミキイロアザミウマはメロン黄化えそウイルス等を媒介する。また年間の発生の回数が多いことや各生育ステージが混在して発生すること、蛹は土中にいること、アザミウマの種類により薬剤の感受性が異なる（肥料農薬レポート 2018 年 5 月号参照）ことから薬剤の選定が重要になってくるとともに薬剤のみの防除だけでなく、雑草防除、防虫ネットの使用が必要になっている。

## アブラムシ類

### 【早期発見と発生が低密度のうちに防除】

代表種はワタアウラムシとモモアカアブラムシである。春から秋にかけては、雌のみで増殖する単為生殖によって次々と増殖する。多発すると級汁による直接加害やキュウリモザイク病などの間接的被害も大きい。防除法としてジェイエース粒剤の使用やコルト顆粒水和剤、アクタラ顆粒水和剤等を使用する。アブラムシ類は繁殖力が高く、短期間のうちに大発生する可能性があるため早期発見と低密度の内に防除を行う必要がある。

## コナガ

### 【異なる作用性の薬剤でローテーション防除】

コナガとはアブラナ科の作物を加害する小型のチョウ目害虫である。主に蛹で越冬し春に成虫が羽化する。温暖な地域ほど春の発生が多い。幼虫は芯葉を好んで食害するためいわゆる芯どまりになる。コナガは世代交代が非常に早く殺虫剤抵抗性を発達させやすいので異なる作用性の薬剤でローテーション防除を行うことが重要である。定植時の粒剤の植穴土壌混和処理は初期被害を抑えるのに有効である。性フェロモン剤（コンフューザーV）等の使用などを踏まえて防除を行う必要がある。



コナガ幼虫

\* 薬剤のみの防除だけでなく、物理的防除や耕種的防除、天敵資材などの使用を組み合わせることで防除が必要となってくる。なお今回挙げた農薬については地域間での感受性が異なるため地域での状況を加味した上で使用していただきたい。さらに世代間での抵抗性の発達があるため異なる作用性のローテーション防除を意識して防除を行う必要がある。

以下に昨今、対象害虫に登録のある新規農薬が上市されたためご紹介いたします。

## トランスフォームフロアブル (スルホキシフル 9.5%)

・2018年2月7日上市

### 【製品概要】

ダウ・アグロサイエンスが開発した新規殺虫剤。  
カンキツ、野菜類で登録取得している。

### (特徴)

#### ① 新規系統

⇒【スルホキシミン系の新規殺虫剤】であり、現在どの系統の殺虫剤とも交差抵抗性は認められていない。  
IRACの分類上既存のグループではなくスルホキシミン系として新設されたグループ4Cに分類。  
⇒アブラムシ類の場合には薬剤散布から数十分経過するとコロニーの虫の動きに変化が現れ始める。  
「ストレッチ症状」で後脚が伸張した状態で痙攣する個体やぎこちなく歩き出す個体が見られる。

#### ② 広範なカメムシ目害虫防除に有効

⇒アブラムシ類とコナジラミ類、主なカイガラムシ類にも優れた効果がある。

#### ③ 浸透移行性と浸達性

⇒散布後に展葉してくる新葉にも有効成分が移行し、一定期間防除効果が期待できる。

#### ④ 優れた速攻性、残効性、耐雨性



## ファインセーブフロアブル (フロメトキン 10.0%)

・2018年6月5日上市

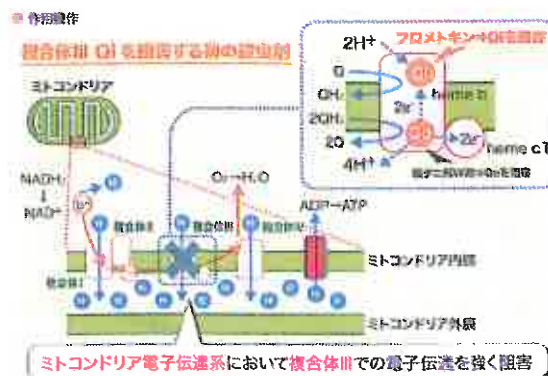
### 【製品概要】

ファインセーブフロアブルは日本化薬(株)とMeiji Seika ファルマ(株)が共同開発したものである。野菜類や茶、カンキツで登録取得している

### (特徴)

#### ① 新規作用機作

⇒【新規作用機作】で既存剤に感受性の低下した害虫にも有効。ミトコンドリア電子伝達系複合体III Q<sub>i</sub>を阻害する。



② アザミウマ類に特効的・サビダニ類にも高い効果。コナガ・チャノホソガ・タバココナジラミにも高い効果を示す

③ 天敵・有用昆虫に対する影響が小さい（ミツバチ・マルハナバチ・カブリダニ類等）  
⇒影響表については別途折り込みチラシに記載。

\*上記で挙げたように新規作用・系統の新規農薬が上市されました。園芸場面において収量・品質向上の一助になればと思います。このような新規薬剤をローテーション防除の一つとして指導の際にはご検討ください。登録内容については折り込みチラシをご確認の上、ご指導ください。

\*引用：JA全農肥料農薬部（害虫と防除法）抜粋

JA全農営農技術センター農薬研究室（グリーンレポートNo.517）抜粋

トランスフォーム、ファインセーブ（技術資料）抜粋

\*7月号に記載されている内容はJA全農ながさきのホームページに掲載されています。

JA全農ながさきホームページURL：<http://www.ns.zennoh.or.jp>

## JAグループ「安全防除運動」展開中

◎**農産物の安全**……今、消費者がもっとも願っている「食の安全」。

それは私たち生産者の願いでもあります。きちんとした農薬を選び、正しく使って、日誌に記録を残す。これを続けることが、消費者に信頼される農産物づくりにつながります。


- ・使うのは、もちろん登録農薬！
- ・安全使用・事故防止へ、ラベル確認を習慣に！
- ・使用後も、防除日誌で“安全証明”

◎**環境の安全**……土や水といった自然の恵みを利用して営まれている農業。皆さんが守り続けてきた大切な田畑を、次の世代に残すためにも、自然環境に十分配慮した農薬散布を心がけましょう。

- ・必要量だけ希釈し、使い切る。空容器は適正処理を！
- ・水稲除草剤の散布後は、圃場外への流出防止策を！

◎**農家の安全**……軽装備による散布中の事故や子供の誤飲事故が増えています。いくら周辺環境に配慮しても自身の健康を害しては何にもなりませんし、周辺住民との信頼関係を築くためにも農薬の保管管理にはいっそう注意したいものです。

- ・暑さに負けるな。完全防備！
- ・使用後は“薬の戸締り”万全に！



散布するときは、  
マスク、メガネ、手袋を  
きちんと、つけましょう。

安全使用基準を守りましょう